



今日のキーワード 『街角景気』は6カ月連続改善し14年以来の水準

「景気ウォッチャー調査」、いわゆる『街角景気』とは、景気に敏感なタクシー運転手や小売店、メーカー、輸送業、広告代理店など、地域の景気の動きを敏感に観察できる立場にある約2,000人を対象とした調査です。10月の『街角景気』は、現状判断指数（DI）が6カ月連続で改善し、水準は2014年1月以来の高さになり、景況感の回復が一段と明確になりました。先行き判断指数（DI）は3カ月連続で改善しました。

ポイント1

**現状判断DIは6カ月連続改善し14年以来の水準
先行き判断DIも3カ月連続改善**

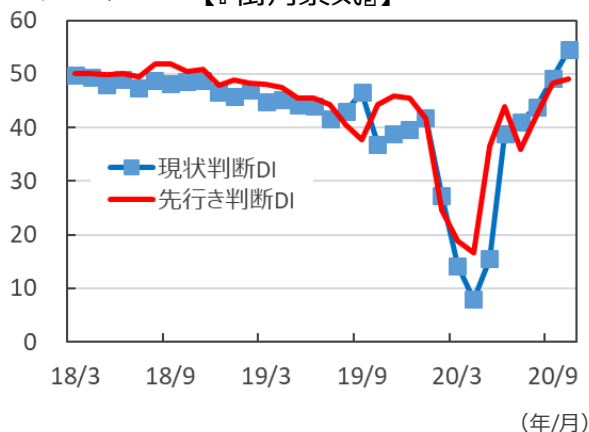
- 10月の『街角景気』によると、現状判断DI（季節調整値）はGo To トラベルで東京発着も対象になった影響などから、前月比5.2ポイント上昇し54.5と6カ月連続で改善し、水準は14年1月以来の高さになりました。項目別では家計動向関連、企業動向関連、雇用関連の全てが改善しましたが、家計動向関連では小売、飲食の改善が目立ちました。
- 先行き判断DIも、前月比0.8ポイント上昇し、49.1となりました。家計、企業、雇用のいずれもが改善しましたが、新型コロナに対する不透明感などから、いずれも小幅な改善にとどまりました。

ポイント2

**ポジティブな単語が上回る
旅行関連への期待が高い**

- 街角の声をより客観的に分析する、当社独自のテキストマイニングによる分析手法（*）によると、ウォッチャーの現状判断に関するコメントにおける単語の使用数は、ポジティブな単語の使用比率がネガティブな単語を2カ月連続で上回りました。「キャンペーン」（Go Toキャンペーン）が大幅に増加しており、景況感への影響の高さをうかがわせます。
- 先行き判断では、ポジティブな単語の使用比率がネガティブな単語を6カ月連続で上回り、現状判断と同様に「キャンペーン」が一段と増加しました。新型コロナに関する用語の使用数はさほど減少しませんでした。

（ポイント） 【『街角景気』】



（注）データは2018年3月～2020年10月。
（出所）内閣府のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

（*）テキスト（文書）をコンピュータで探索する技術の総称。典型的な例として、テキストにおける単語の使用頻度を測定し、テキストの特徴を統計的に分析・可視化することで、背後にある有益な情報を探ることができます。

今後の展開

現状は大幅に改善するも、先行きには慎重さも残る

- 内閣府は『街角景気』の基調判断を「新型コロナウイルス感染症の影響による厳しさは残るものの、着実に持ち直している」と先月の「持ち直している」から変更しました。先行きについては「感染症の動向を懸念しつつも、持ち直しが続く」と変更はありませんでした。『街角景気』の現状判断は大幅に改善してきましたが、新型コロナの感染が再度拡大の方向にあり、先行きについてはやや慎重な様子もうかがえます。

**ここも
チェック!**

2020年10月 9日 『街角景気』は5カ月連続改善
2020年 9月10日 『街角景気』は新型コロナ禍前の1月水準まで回復

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。